

2022

認定特定非営利活動法人Future Code
活動報告書



Bridging to the future for global health

2023 年 6 月 1 日

Haiti

2022/5 ①

ハイチの孤児院では毎月、食糧栄養支援を行なっています。支援は穀類を中心にしています。現在もハイチでは昨年の大統領暗殺事件に続き政治的な混乱がおさまらず、治安の悪化があり、誘拐なども多発、そのため食糧を手に入れるだけでも厳しい状況は変わりません。今回は孤児院の環境や衛生の改善のためにも、現地から希望があったマットレスなども支援として追加しています。

医療/歯科の定期健診なども予定しており、私たちとしても子どもたちの成長を見守りながら、出来る限りのことを継続していききたいと思います。



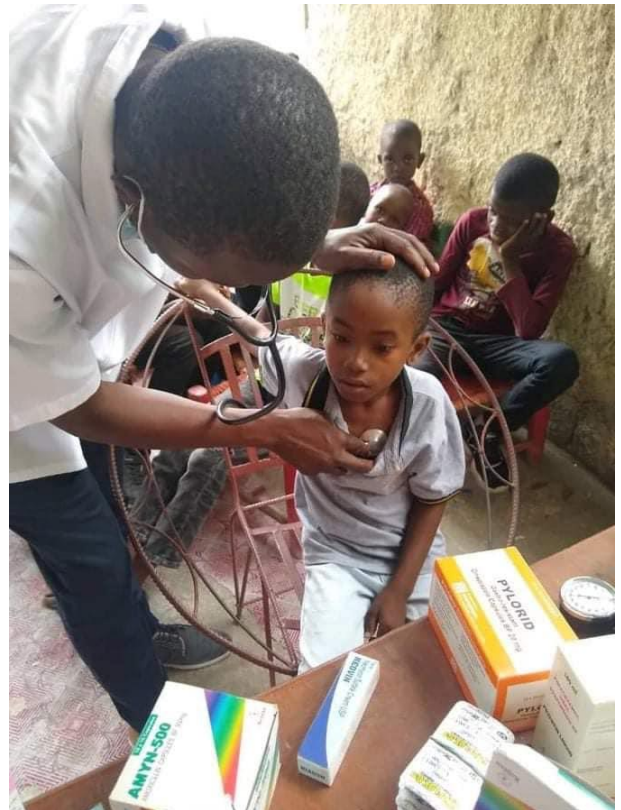
2022/5 ②

ハイチの孤児院で子どもたちの健康診断と、歯科検診治療を実施しました。幸い重篤な病気は見つかりませんでしたが、栄養不良とそれに伴う貧血や皮膚疾患が多く、継続支援している食糧支援と共に、子どもたちの栄養改善を目指していききたいと思います。

その他の疾患としては結膜炎、風邪、胃腸炎なども見受けられましたので、栄養改善に合わせて薬による治療を開始しています。

ハイチの孤児院では、支援資金不足や政治的混乱から、食糧が足りない問題は何年も続いています。現在世界的に食糧の価格上昇があり、さらなる子どもたちの栄養不良が起こっています。

少しでもこの問題が解消できるよう、私たち FutureCode も努力を続けたいと思います。



2022/8/23



昨年 2021 年の 8 月に再び起こったハイチ地震から再建したこの病院に、新たに医療用ベッド、診察デスクや必要な薬剤等を支援しました。

再建後、この病院の地域住民の需要は大変高く、日々、来院する患者は増えています。より多くの患者さんを受け入れられるよう診療を効率化するために、重要な医療機材でありました。現地の看護師からも喜んでもらい、私たちも嬉しく思います。震災で医療機材も薬剤も、病院そのものも、一度は全て失われてしまいましたが、そこから一年、スタッフ皆の努力で地域の医療に貢献できる病院として復活できたことは、大変大きな意味があり、私たちもまた、現地から勇気をもらいました。医療の届かぬ場所により良い医療を届けるため、努力を続けたいと思います。

2022/11 ①

ハイチは現在、社会的、政治的な危機が重なり、食糧危機を迎えています。店にも食糧の販売はなく、また入荷したとしても値段の高騰がすすみ、危機的な状況は続いています。食糧配布を受け取りに来た女性も、この二日間、食べるものがなかった、と話をします。今回、首都ポルトープランスのデルマ近郊のスラムに住む 500 名の人々を対象に、キリスト教教会と連携し、約 2 ヶ月分の食糧支援を行いました。残念ながら、まだまだこれからも混乱は継続する可能性が高く、私たちも出来る限りの支援は継続したいと考えています。



2022/11 ②

ハイチで、23 人の子どもたちが暮らす孤児院に食糧支援を行いました。現在、ハイチは政治的社会的な危機にあり、食糧不足が深刻な状況で、特に孤児院は窮地に立っています。この孤児院でも、支援は他に受けることができず、食糧調達の目処が立ちませんでした。

今回の支援では、年内 12 月までの食糧を緊急事態として支援しています。少しでも早くこの危機から立ち直ることを願い、また子どもたちが少しでも安心して暮らせるよう、私たちも支援を行いたいと考えています。



2023/1/3

中米のハイチでは、食糧難が起こっており、大変厳しい状況が続いています。2022 年の年末に、私たちは約 300 名の住人を対象に、キリスト教教会にて食糧支援を再び実行しました。政情不安から、誘拐など多くの犯罪が起こっており、そのため多くの支援団体はハイチを離れ、支援はほとんど行われていない状況にある、との報告がありました。また、市場にもすでに食糧はなく、買うことも難しい状態が続いています。

世界が不安定となり、世界中で食糧難が起こる中、2023 年も、残念ながら厳しい状況は変わらないと予想され、この問題に対して住民にとってはどうする事もできません。継続できる支援が必要であり、私たちも努力を続けたいと思っています。



2023/3/26

ハイチの孤児院に食糧支援を再度実施しました。これからの子供達の食事4ヶ月分にあたります。

治安の悪化から、多くのマーケットも閉鎖されたままであり、食糧価格は上昇し、食糧の入手が非常に困難である状況が長く続いており、継続して支援を実施しています。

多くの課題が出現し、残されたままでありますが、まずはこの危機を乗り越えなければなりません。私たちは、皆様から頂くご支援を現地に効果的に還元する意味でも、緊急性が高いものから現地ニーズを最も重視しています。



Burkina Faso

ブルキナファソで農業を開始

2022/6 ①

現在ブルキナファソでは、ウクライナでの紛争の影響を受け、ウクライナやロシア等に依存していた約80%前後の小麦や肥料の入荷が困難となっています。農作肥料がないために全体的に食糧の物価が急上昇（小麦、トウモロコシ等は平時の3倍）しています。そのため現地からは、飢餓の報告もあり、今後もこの被害が拡大すると予想されています。

そこで、飢餓の減少に少しでも貢献するため、他団体と協力し、大豆やその他の豆類などを中心として現地の食糧生産を増やすため、農業を開始することになりました。

トラクターなどもない中で問題は多く、困難も予想されますが、時間があまり残されていない事もあり、今すぐに開始しなければならないと判断し農業を開始しました。

私たちができる限りの現地貢献を続けていきたいと思っています。



2022/6 ②

西アフリカ ブルキナファソの我々の活動拠点であるサポネの街で、農業が始まっています。ウクライナ紛争の影響により、肥料も手に入らず、小麦だけでなくあらゆる穀物の値段が急激に上昇しています。値段は数ヶ月前の 1.5 倍から 2.5 倍ほどであり、食糧難は既に 345 万人ほど、また急性の栄養失調に陥った子どもも、報告には 5000 人ほどは判明、更なる拡大が予想されます。

そのため私たちも 5 月から急遽準備を始め、自給率を少しでも上げるために 5 ヘクタール（東京ドームより少し広いほどの広さ）の土地を活用し、トウモロコシや大豆、他の豆類を中心に、3 カ月ほどで収穫が見込める作物の栽培をこの 6 月に開始しました。

また、ブルキナファソの国境地域でのテロなどにより、この数ヶ月で国内避難民が 180 万人ほど出ており、現地の状況として貧困は加速し、複雑です。そこでこのプロジェクトでは、夫を亡くし、子どもを育てる女性や、避難民の方々に対しても雇用をつくり、この街をサポートします。

できる限り、緊急事態である食糧難に対して行動して参ります。



2022/7 ①

西アフリカ 食糧危機が続くブルキナファソで、食糧支援の 12 トンのトウモロコシ、米と肥料が現地に届きました。これから住民に、日本の我々からの支援として、現地行政機関と連携しながら配布が行われます。ウクライナでの紛争の影響で、穀物や肥料の値段の高騰に加え、テロによる国内避難民が出ており、現在、推定 340 万人程の人口が食糧危機にある状況です。

私たちは現地で農業も並行して続けていますが、事態は急を要するために食糧自体の支援も開始しています。国際的にも、アフリカの支援を表明する国々は出てきていますが、すでに食糧危機は始まっており、このような不条理な貧困や飢餓に対し、私たちに少しでも出来ることは続け、国際社会の支援が始まるまでは、なんとか繋げていきたいと考えています。

2022/7 ②

食糧危機にある西アフリカのブルキナファソで、先週に支援拠点であるサポネの市長等も出席いただく中で、食糧支援としてトウモロコシや米 10 トンと農業肥料 2 トンの譲渡式が行われました。現在は現地の行政と連携しながら食糧の配布が開始されています。

これに並行して国内避難民と協力しながら農業も進めており、大豆などの豆類を初め、10 月ごろの収穫を目指して進めています。こちらに関しても、子供たちの給食の 50%の供給となるよう、努力を続けます。



2022/8/21

西アフリカのブルキナファソで進めている農業プロジェクトですが、現地の皆の努力があり、大豆やトウモロコシも育ってきています。

アフリカの食糧危機は続いています、この収穫までうまくいけば、現地の地域の学校給食の50%をまかなえる予定です。

これからも私たちも協力しながら、現地に根づくものとなるよう、努力を続けたいと思います。



2022/9 ①

西アフリカのブルキナファソで、食糧危機に対する食糧支援の一環として、引き続き農業を行っています。順調に進んでおり、いよいよ大豆など豆類は収穫までもう少しのところまできています。今回は40名の女性たちのグループが、この広大な農地の草むしりを行っています。

また、今回は50名を超える村の多くの男性たちが、女性たちを手伝いに来てくれました。皆で一丸となり、努力してきた結果が身を結ぶまでもう少し。この収穫は地域の子どもたちの給食となり、栄養を支えるものとなるはずです。

しかしこの西アフリカの気候の中では、気を抜けるものではなく、引き続き皆で努力を続け、この食糧危機を乗り越えたいと思います。



2022/9 ②

西アフリカ ブルキナファソの農業プロジェクト、最初の収穫が始まり、大量の収穫物が積み上げられました！今回の食糧危機が始まり、6月末から急遽スタートしたこのプロジェクトで、初の豆類の収穫です。雨に恵まれた点がありますが、これは日本からの皆様のご支援と、現地住民の努力により身を結びました。まだまだ食糧は必要であり、これからさらに2期目へと移行しますが、現地でもこの食糧危機をなんとか乗り切ろうと、住民も一丸となり、希望を持って努力を続けています。

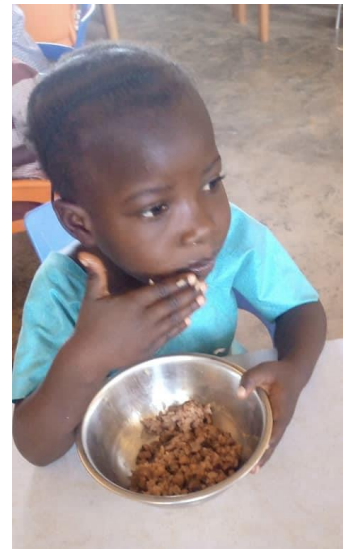
これからも気候の問題など、全てがうまくいくとも限らない状況ではありますが、できる限り私達も現地と共に、希望を持って前に進みたいと思います。

2022/12/7

西アフリカのブルキナファソでは、食糧危機により7月から開始した農業プロジェクトによって現在は収穫が続いています。

最初に収穫されたインゲン豆もすでに幼児院や学校の給食に出されており、子どもたちの栄養を支えています。

しばらくこれからもこの地域では収穫物での食糧確保は期待されますが、残念ながら、まだまだ本質的に国際問題であるこの食糧危機問題は解決されていません。私たちは今後もさらに農業プロジェクトを拡大し、また食糧の保存なども検討する予定です。



2023/2/5

西アフリカのブルキナファソでは、今年度も私たちが運営する幼児院で、42名の子どもたちへの教育や、栄養支援などを行っています。

食糧危機にあるこの国では、米などの値段も高騰しており、今回も子どもたちへの食糧支援を合わせて行いました。

地域全体との協力も不可欠であり、教師や地域の保護者たちとも協議しつつ、継続的な運営が続くように現地とともに努力を続けます。



Bangladesh

バングラデシュで、支援要請のあった障がい者施設に、足に障がいのある子どもたちへの車椅子を中心に、合計 10 台の車椅子を、現地ロータリークラブさまと共同で寄贈いたしました。

現地の看護師/マネージャーが代表してスピーチさせていただきました。活動拠点の街にも、日本の団体である私たちとして貢献できるよう、今後も現地団体とも協力体制を作りながら努力をしていきたいと思います。



2022/8/16

バングラデシュの孤児院を訪問し、子どもたちの健康状態を調査しています。

前回と同じく、首都から離れたこの孤児院では寄生虫と考えられる疾患が多く、これから症状のある子どもを治療をしていく方針となり、またそれに加えて管理者ともミーティングを行いました。この環境で最適な食事や衛生環境についても工夫や改善を行っていきます。



2022/9/22

バングラデシュの孤児院で定期健診を行いました。この孤児院では、以前の訪問時にも確認したように、腹痛など寄生虫によると考えられる症状が、子どもたちに多く見られます。前回の訪問時に提供した薬により、以前に治療を行った子どもたちには症状の改善傾向が見られました。

首都郊外の病院で検診を行っても正しく処方されていない薬や健診が行われる場合があり、現地医療スタッフにより、今回も正しい薬/処方箋の提供やサポートを行っております。

多くの子どもたちは大変元気であり、この孤児院で勉強を続けています。今後も現地団体や管理者と共に、子どもたちが安心して暮らしていけるよう、貢献が出来るように努力してまいります。



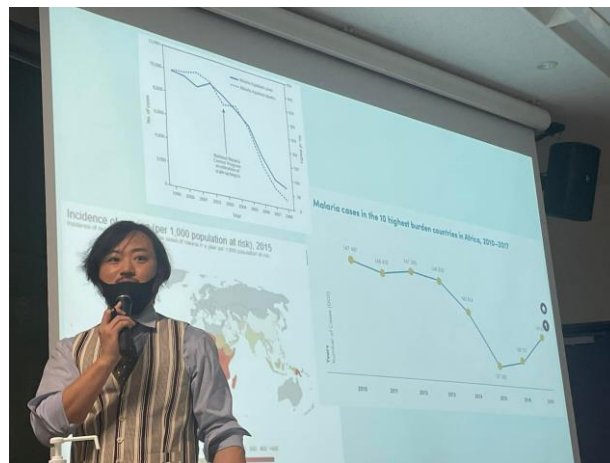
Japan

講演会・講義

2022/6/24

兵庫医科大学の国際保健の講義を代表の大類が担当させていただきました。

久々の対面講義でもあり、多くの学生さんが参加してくれました。途上国の現場での医療を中心に、またプロジェクトの組み立てについての理論的なところも講義では触れています。さらには医師として、また人として、どのような感覚で支援事業を行っているのか、など、途上国で現場に立つものとしての医療者としての心の中の話もあり、これから未来に医師となる学生さんたちにとって、何か一つでも役に立てたならば幸いです。



2022/6/27

兵庫県の丹波で活動報告を兼ねた一般講演を行いました。今回のメインテーマは、現在のウクライナ紛争の影響により、食糧難が発生している私たちの活動地であるブルキナファソのリアルな現状と、それに対する食糧支援や、先日から開始した農業プロジェクトについてでした。この食糧危機に加えて、テロによる国内避難民の発生が現地では問題を更に複雑なものとしています。

対面の講演と、オンラインでの配信も行われました。暑い中ご来場くださり、また多くのご寄付もいただき、ありがとうございました。



2022/8

神戸西ロータリークラブ様の例会で、代表 大類が講演をさせていただきました。この新型コロナ禍の2年から3年の間に、新たに私たちが各国で続けてきたコロナ対策治療の取り組みや、また以前から取り組んでいたものの、休止していたプロジェクトの再始動などの発表を行いました。



2022/9

JICA 関西にて開催されました HYOMIC 7 にて、代表の大類が登壇し、アフリカのブルキナファソのプロジェクトについて発表を行いました。

他の兵庫県、関西のアフリカに関わる団体の発表もあり、また文化紹介などもあわせて行われ、皆様にも神戸からアフリカに関わり、このような支援活動をしている団体がある事を知っていただける良い機会であったと感じています。

また、ソーシャルビジネスとして、ブルキナファソ産のシアバターを使ったハンドクリーム「ハダニシア」の紹介もさせていただき、その品質にご出席された皆様からもご好評いただきました。



メディア紹介

2022/7 日本 WHO 協会発行「目で見える WHO 2022 夏号」に代表の大類が寄稿しました。

『神戸、関西、日本から世界へ、相互理解と医療支援を』

2022/9 Kiss FM KOBE の Kiss SDGs TRY に代表の大類が出演しました。

2022/10

10 月 23 日 神戸新聞 朝刊に代表大類のインタビューが掲載されました。

『海外での支援活動、駆り立てるものは』



イベントへの参加

本年度は2022年7月30日、31日に行われました神戸ワールド記念ホールでの試合を始めとし、ドラゴンゲート様の多くの大会で、Future Codeの活動紹介とハダニシア販売ブースを出展させて頂きました。

ドラゴンゲート様とはコロナ禍に感染症対策をきっかけに代表大類とご縁をいただき、同じく神戸を拠点として活動している事や、世界の人々に対する助け合いの想いが重なり、Future Codeの貧困解決や医療支援に対し団体を挙げてご支援いただいております。

ドラゴンゲート様が社会的責任として取り組まれている、日本や世界での人道支援について、その考えをしっかりと共有し、今後も共に活動을続けて参りたいと考えています。



2023/2

第 30 回ワン・ワールド・フェスティバルに参加しました。

西日本最大の国際協力のお祭りで、3 年ぶりの対面式での開催となりました。

～誰ひとり取り残さない社会の実現のために～、多数の NGO/NPO、国際機関、企業、教育機関が参加し、市民のみなさんとの交流や情報交換を行い、FutureCode のブースでは、ブルキナファソ産のシアバターを使用したハンドクリーム、『ハダニシア』も販売させていただきました。



Future Code BYCS（学生部の活動）

今年度は徐々に新型コロナウイルスの拡大も緩和されていき、学生部は感染対策を講じた上で部署ミーティングは対面で行うなど、オフラインとオンラインの双方を駆使しメンバー間での交流をより活発にできるよう活動しています。

私たちは主に、西アフリカのブルキナファソ国で作られたシアバターを原材料にした

「hadanishea(ハダニシア)ハンドクリーム」を 2019 年より販売しています。これは、現地の工場で製造しているシアバターを使用することで、雇用を生み出し、ハンドクリームの売り上げが現地の公衆衛生・医療支援・食糧支援などの Future Code の活動につながる Future Code の商品です。また、今年度は販売から 4 年目となり、hadanishea ハンドクリームの 2 期サイクルとして新たにパッケージをリニューアルし、販売しています。その他、学生部 BYCS の活動はハンドクリームの販売のみならず、イベントでのブルキナファソの紹介や、学生が行う国際協力についてメンバー同士で積極的に議論しています。学生部 BYCS は国際社会で生きる人材育成の場となっています。



写真：オンラインミーティングの様子



写真：5期から6期への引継ぎ会にて



写真：シアバター原産地ブルキナファソをより身近に感じられるようなデザインにリニューアルした
2期 hadaanishea ハンドクリーム

イベントへの参加

学生部 BYCS は国際協力関連のイベントをはじめ、さまざまなイベントに積極的に参加することで、国際協力活動を広めていく機会をつくっています。また、今年度からは FutureCode との繋がりにより、たびたびドラゴンゲート様の試合会場にて出店させていただいています。昨年に比べ大幅に対面販売の機会が増え、さまざまなイベントへ出展し、参加者の方へ hadanishea ハンドクリームの販売と BYCS の活動の宣伝を行いました。心身の健康、持続可能な社会や地球環境を大切に考える方々が集まる「ロハスフェスタ」、神戸市西区の方々とのつながりが生まれた「こべや」や「ウェルアベニューマルシェ」など、幅広く様々なイベントに出店しました。さらに、兵庫・国際協力同志の会（HYOMIC）の研修会では、出店に加え、イベントの企画・運営に携わる機会をいただきました。実際に商品や活動の説明をさせていただくことで、より hadanishea 自体に関心を持っていただけたり、よりうまく自分達の活動を伝えられるようになったりと、貴重な機会になっています。

イベントと一緒に参加した出展者やその他の方々とのつながりは、昨年に引き続き運営している EC サイトや、お取り扱いいただいている店舗様からの売上にも貢献しています。



写真：ドラゴンゲート様の試合会場にて

広報活動

【SNS 活動】

昨年度に引き続き、Instagram、Facebook、Twitter での発信に加え、2022 年 10 月より hadanisha 公式 LINE を開設し、合計 4 つの媒体を用いて広報活動を行いました。今年度は文字を入れた画像や動画の投稿を増やし、より多くの人の目に留まり、hadanisha の魅力や BYCS の活動が伝わるように努めました。また、BYCS のアカウントでは主に活動について、hadanisha のアカウントでは主に商品について宣伝するなど各媒体の特色を活かして宣伝しました。hadanisha の Instagram アカウントでは 2022 年 10 月 31 日より、Instagram ショッピング機能を導入・開始しました。

各アカウントリンク

- Instagram
 - ・ hadanisha アカウント ([hadanishaInstagram](#))
 - ・ BYCS アカウント ([BYCSInstagram](#))
- Facebook
 - ・ BYCS アカウント ([BYCSFacebook](#))
- Twitter
 - ・ hadanisha アカウント ([hadanishatwitter](#))
 - ・ BYCS アカウント ([BYCSTwitter](#))
- 公式 LINE
 - ・ hadanisha アカウント



【インフルエンサーによる外部宣伝】

Instagram の Instagram Direct 機能を利用し、エシカル系・SDGs 系・子育て系を始めとする様々なジャンルのアカウントを運営するインフルエンサーに hadanishea の紹介を依頼し投稿に掲載していただきました。8 アカウントにて hadanishea を掲載していただき、その度に新規の SNS フォロワーの獲得や認知度の向上に繋がりました。

掲載していただいたアカウントは以下の通りです。

神戸人 (@kobejin2018)様、斎藤あやめ (@ayamake_beautiful)様、白雪はる

(@haru.sukinkea.biyou)様、エシカルな暮らしメディア (@eco_ethical_life)様、はま SDGs (@hamasdgs)様、miyu (@miyu.iii_)様、ARISA (@ft_lady)様、mami (@ao_no_mori)様、ぱるむ (@parm_earth)様、かなで様 (@kanade_io) 様

【ラッピングリニューアル】

上記インフルエンサーによる外部宣伝をしていただいた内の 1 人である、神戸人

(@kobejin2018)様よりご提案いただき、ラッピングをデザインしていただきました。2023 年 2 月にリニューアルを行い、プロによるクオリティの高いラッピングでお客様より好評をいただいています。



【EC サイトリニューアル】

2022 年 6 月より、EC サイトをリニューアルしました。有料版に移行したことにより、使用できる機能が増え、デザイン性が高まり、以前のものより見やすいものとなりました。

店舗営業関連

今年度は、メール送付や訪問を経て新たにご縁をいただいた、3 つの店舗様でのお取り扱いが始まりました。加えて、茨城県を販売の中心としている、アフリカの家庭料理シダモ様にも、広報用ポスターの掲示にご協力いただくことになりました。また、神戸市西区のイベントに出展させていただいたご縁で、地域に根付いた店舗様との新たなつながりを築くこともできました。

さらに、goooods 株式会社様と、BtoB 方式の卸販売という新たな形で、商品登録を進めています。

2022 年度末時点で 5500 本以上の hadanishea を日本中にお届けしています。

企画部の立ち上げ

今年度から企画部を立ち上げ、昨年に続き、クリスマスフェアやバレンタインフェアを行いました。

また、対面イベントのディスプレイの見直しを行いました。

ポップの整理や hadanishea の置き方を工夫することで、より洗練されたディスプレイが完成しました。学内での hadanishea の認知度を上げるため、また、新メンバーの勧誘という目的をもって、神戸市外国語大学生協前販売を積極的に行いました。また、販売だけでなく、SDGs に関連した活動の掲示を行いました。学生だけでなく、職員の方にも hadanishea を手にとっていただき、多くの方に hadanishea を知っていただく機会になりました。



神戸市外国語大学生協前販売

その他の活動

【コロナ禍での活動方法】

新型コロナウイルスの影響が多少緩和されたため、オンラインと対面の双方からメンバー募集を行い、無事次代を担う新メンバーを集めることができました。

オンラインツールを用いることで、遠方にいても参加できるシステムになっています。時間や場所に囚われることなく集まることができるようになり、小さな人数で話すことができるブレイクアウトルームを用いることで、継続的に自分の意見を交換する場が構築できました。

対面での活動も再開し始めており、より円滑に情報の交換ができる場を構築することができました。



【研修制度の改善】

2年前から始めた研修制度の内容をさらにブラッシュアップし、既存のメンバーにも新規のメンバーにも学びが多くなるように改善しました。その他新規メンバーの発想やアイデアを大事にするためにも、研修の最後には自分が BYCS でやりたいことを企画して発表し、できそうなものから実行に取り組んでいます。

実行に取り組むことで、何が必要で、どんな計画を立てることが必要なのか。今までの自分の力を試すとともに、他のメンバーや外部の方の力も借りることを通じて、より深く、実感的に国際協力とはどういうことなのか、どのような力が求められるのかということを学んでいます。



兵庫・国際協力同志の会（HYOMIC）の研修会

【新しい取り組み】

今年度から活動についての知識、理解を深めるために新しい取り組みとして対面販売実践会、夏休みの取り組み発表を行いました。

コロナ禍も落ち着き始め、イベントに参加できるようになってきたため、「対面販売実践会」として複数の実際のイベントや天候、季節等を想定して接客する側とお客側に分かれる実践練習を行いました。お客様からの視点を知ること、よりわかりやすく私たちの活動を知っていただくための説明の方法を学ぶことができました。

また、BYCS メンバーの活動への理解を深めるために「夏休みの取り組み発表」を行いました。各自夏休みに学んだことを発表し、知識の共有を行いました。様々な内容で発表が行われ、知識の共有を行う場を構築することができました。



ロハスフェスタ



西区役所「こべや」



ウェルアベニューマルシェ



対面販売実践販売会



販売風景